

簿記3級検定試験 問5想定問題③『精算表』

×1年04月01日から×2年03月31日を会計期間とする。

- ① 出張の旅費交通費のために払い出した仮払金が精算された。全ては使われず30円が戻された。
- ② 現金過不足の残高のうち、50円は水道光熱費の支払い分の処理漏れで、残りは不明であった。
- ③ 期末における棚卸高は6,000円である。
- ④ 建物の減価償却費を計算する。取得価額は100,000円、対応年数は50年、残存価格は10%である。
- ⑤ 有価証券の決算日における市場価格は2,500円であるため、評価替えを行う。
- ⑥ 決算における消耗品の未使用額は100円であった。
- ⑦ 受取利息は×1年10月1日に年利4%で貸し付けた11,000円に対する1年間の利息である。
- ⑧ 支払保険料は×1年12月1日に向こう1年分の保険料を前払いした金額である。
- ⑨ 決算において、×2年3月21日～×2年3月31日の未払給与2,000円がある。
- ⑩ 決算において、売上債権に対して2%の貸倒引当金を差額補充法にて設定する。

精算表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	600							
当座預金	4,700							
売掛金	15,000							
受取手形	10,000							
貸付金	11,000							
売買目的有価証券	3,000							
仮払金	100							
繰越商品	5,500							
建物	100,000							
買掛金		23,000						
貸倒引当金		400						
建物減価償却累計額		18,000						
資本金		100,000						
売上		1,500,000						
受取利息		440						
仕入	1,008,000							
給料	480,000							
旅費交通費	3,000							
水道光熱費	300							
支払保険料	180							
消耗品費	400							
現金過不足	60							
	1,641,840	1,641,840						
消耗品								
()保険料								
()給料								
()利息								
雑()								
貸倒引当金()								
減価償却費								
有価証券評価()								
当期純()								
			0	0	0	0	0	0

解答

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	600		① 30				630	
当座預金	4,700						4,700	
売掛金	15,000						15,000	
受取手形	10,000						10,000	
貸付金	11,000						11,000	
売買目的有価証券	3,000			⑤ 500			2,500	
仮払金	100			① 100				
繰越商品	5,500		③ 6,000	③ 5,500			6,000	
建物	100,000						100,000	
買掛金		23,000						23,000
貸倒引当金		400		⑩ 100				500
建物減価償却累計額		18,000		④ 1,800				19,800
資本金		100,000						100,000
売上		1,500,000				1,500,000		
受取利息		440	⑦ 220			220		
仕入	1,008,000		③ 5,500	③ 6,000	1,007,500			
給料	480,000		⑨ 2,000		482,000			
旅費交通費	3,000		① 70		3,070			
水道光熱費	300		② 50		350			
支払保険料	180			⑧ 120	60			
消耗品費	400			⑥ 100	300			
現金過不足	60			② 60				
	1,641,840	1,641,840						
消耗品			⑥ 100				100	
(前払)保険料			⑧ 120				120	
(未払)給料				⑨ 2,000				2,000
(前受)利息				⑦ 220				220
雑(損)			② 10		10			
貸倒引当金(繰入)			⑩ 100		100			
減価償却費			④ 1,800		1,800			
有価証券評価(損)			⑤ 500		500			
当期純(利益)					4,530			4,530
			16,500	16,500	1,500,220	1,500,220	150,050	150,050

解答仕訳

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	旅費交通費	70	仮払金	100
	現金	30		
②	水道光熱費	50	現金過不足	60
	雑損	10		
③	仕入	5,500	繰越商品	5,500
	繰越商品	6,000	仕入	6,000
④	減価償却費	1,800	減価償却累計額	1,800
⑤	有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
⑥	消耗品	100	消耗品費	100
⑦	受取利息	220	前受利息	220
⑧	前払保険料	120	支払保険料	120
⑨	給料	2,000	未払給与	2,000
⑩	貸倒引当金繰入	100	貸倒引当金	100
	借方合計	16,500	貸方合計	16,500

解答解説

- ① 出張の旅費交通費のために払い出した仮払金が精算された。全ては使われず30円が戻された。

試算表の表記されている仮払金は100円。
30円精算されたという事は、70円が旅費交通費として利用されたことになる。

旅費交通費	70	仮払金	100
現金	30		

- ② 現金過不足の残高のうち、50円は水道光熱費の支払い分の処理漏れで、残りは不明であった。

試算表の表記されている現金過不足は60円
50円が水道光熱費として仕訳をする。
差額の10円は理由が不明のため、雑損で処理する。

水道光熱費	50	現金過不足	60
雑損	10		

- ③ 期末における棚卸高は6,000円である。

試算表に表示されている繰越商品「5,500」は当期首における繰越商品金額です。
つまり、前期末における繰越商品となります。
前期末で残った商品は、今期に販売しますので、費用(仕入)になります。
よって、以下の振替仕訳が必要となります。

仕入	5,500	繰越商品	5,500
----	-------	------	-------

それに対して今期末における商品残高は、今期の費用(仕入)にならず来期に持ち越されます。
よって、以下の振替仕訳が必要となります。

繰越商品	6,000	仕入	6,000
------	-------	----	-------

- ④ 建物の減価償却費を計算する。取得価額は100,000円、対応年数は50年、残存価格は10%である。

建物:100,000(取得原価) × 0.9(残存価格を引いた金額) ÷ 50年(耐用年数) = 1,800円

減価償却費	900	建物減価償却累計額	450
-------	-----	-----------	-----

- ⑤ 有価証券の決算日における市場価格は2,500円であるため、評価替えを行う。

試算表の表記額3,000円に比べ500円評価額が減っているため、費用が発生している仕訳をする。

有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
---------	-----	----------	-----

- ⑥ 決算における消耗品の未使用額は100円であった。

試算表から消耗品購入時の仕訳は、全額「消耗品費」として費用計上していると推測できる。
期末時点での未使用の消耗品は資産。
使用していない消耗品費は減額する仕訳をする。

消耗品	100	消耗品費	100
-----	-----	------	-----

- ⑦ 受取利息は×1年10月1日に年利4%で貸し付けた11,000円に対する1年間の利息である。

会計期間から、×2年04月01日～×2年09月30日分の半年分の利息を前受けしていると読み取れる。
 $440(\text{受取利息}) \times 6(\text{前受月数}) \div 12(\text{1年間}) = 220$

受取利息	220	前受利息	220
------	-----	------	-----

- ⑧ 支払保険料は×1年12月1日に向こう1年分の保険料を前払いした金額である。

会計期間から、×2年04月01日～×2年11月30日分の8ヶ月分の保険料を前払いしていると読み取れる。
 $180(\text{支払保険料}) \times 8(\text{前払月数}) \div 12(\text{1年}) = 120$

前払保険料	120	支払保険料	120
-------	-----	-------	-----

- ⑨ 決算において、×2年3月21日～×2年3月31日の未払給与2,000円がある。

今期に発生する費用を計上する仕訳

給料	2,000	未払給与	2,000
----	-------	------	-------

- ⑩ 決算において、売上債権に対して2%の貸倒引当金を差額補充法にて設定する。

貸倒引当金繰入	100	貸倒引当金	100
---------	-----	-------	-----